ランドスケープ技術報告集Vol.2（2023年）
Technical Reports of Landscape Architecture Vol.2, 2023

阿倍野七坂の景観的価値に関する基礎調査

Basic research on the landscape of Abeno Nanasaka

高木 悠里*

*Yuri TAKAGI**

Abstract: Abeno Nanasaka are Aishin sloping street, Aioi sloping street, Sakura sloping street, Yashiro sloping street, Midori sloping street, Minami sloping street, and Miya sloping street, all located on the Uemachi Plateau in Aben-Ku, Osaka City. This paper surveys and analyzes the landscape of the Abeno Nanasaka from the history, topography, and landscape policy and considers their landscape value. The historical survey identified the age of formation of the slope streets using the historic landscape characterization. As a result of the survey, it was found that each of the Abeno Nanasaka has a long history, has been familiar to the local community since ancient times, and has its characteristic topography and unique landscape. Many of the Abeno Nanasaka have steep slopes at the lower part, and many of them have characteristic landscapes to look up to slope street. The Osaka City Landscape Plan also includes the view from the lower part of the slope is considered important. In addition, this area is designated as a Scenic District. In the Scenic District, the significance of newly created urban landscapes is emphasized. In Abeno Nanasaka, examples of newly created landscapes were identified.

Keywords: *sloping street, landscape, history, topography, landscape policy, historic landscape characterization*
キーワード：坂道，景観，歴史，地形，景観施策，歴史的景観キャラクタライゼーション

１．はじめに

魅力ある景観の形成は都市の価値を高めるとともに，地域への愛着や誇りを醸成し地域の個性を創出する。大阪市では，景観法に基づく大阪市景観計画（2006.2 策定・2020.3 変更）を施行し，「大阪らしい景観」の創出を目指して景観施策が展開されている。「大阪らしい景観」の代表は水辺景観であろう。大阪はかつて「水の都」と呼ばれ，近年は「水都大阪」再生の一環として，水辺の遊歩道や船着き場の整備，水辺と一体となった公園・緑地の充実など，水と緑を活かした景観形成が進められてきた。

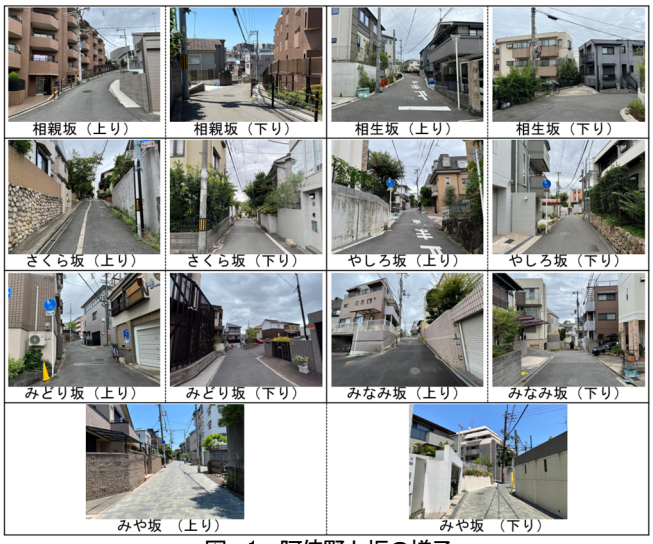
しかしながら，大阪平野を南北に延びる丘陵地である上町台地が広がるエリア（中央区南部・天王寺区・阿倍野区・住吉区北部）は，大阪市内にあって水辺は殆ど存在しない。このエリアにおける身近な景観資源は坂道である。坂道は都市空間の中でも特殊な景観体験の場となる。東京・神楽坂や京都・産寧坂は景観資源としてだけでなく観光資源としても広く親しまれている。大阪市の代表的な坂道としては，社寺が集まる天王寺区夕陽丘に位置する天王寺七坂[1]がある。それぞれ歴史ある坂道であり，自然地形による傾斜や折れ曲がり，社寺の石垣，舗装された石畳等が独特の景観をつくっている。また坂道の上から眺める眺望景観も美しい。

一方，阿倍野区にも数多くの坂道が存在するが，坂道を対象とした景観形成の取組は盛んとは言えない。また阿倍野区には「阿倍野七坂」と呼ばれる坂道群が存在するが，住宅街に位置することもあり，天王寺七坂ほどに知られたものでは無い。東京の坂道や天王寺七坂については，その空間構成や景観に関する既往研究があるが[2)3)]，阿倍野七坂に関する研究や調査報告はみられない。そこで本稿では，市民参加により阿倍野七坂の景観形成が進むことを見据え，阿倍野七坂が市民に身近で重要な景観資源として今後さらに親しまれる場所になるよう，阿倍野七坂の坂道景観を歴史，地形，景観施策の観点から調査・分析し，その景観的価値について考察することを目的とする。

２．阿倍野七坂と周辺地区の概要

阿倍野七坂は，阿倍野区相生通にある 2 坂（相親坂・相生坂），阿倍野区北畠の阿倍野神社近くにある 5 坂（さくら坂・やしろ坂・みどり坂・みなみ坂・みや坂）の総称である（図－1）。阿倍野七坂は上町台地の西側斜面に位置し（図－2），周辺には数多くの無名の坂道が存在するが，この七坂はいずれも昭和初期建立の標石がみられ，古くから地域に親しまれている坂道と言える。

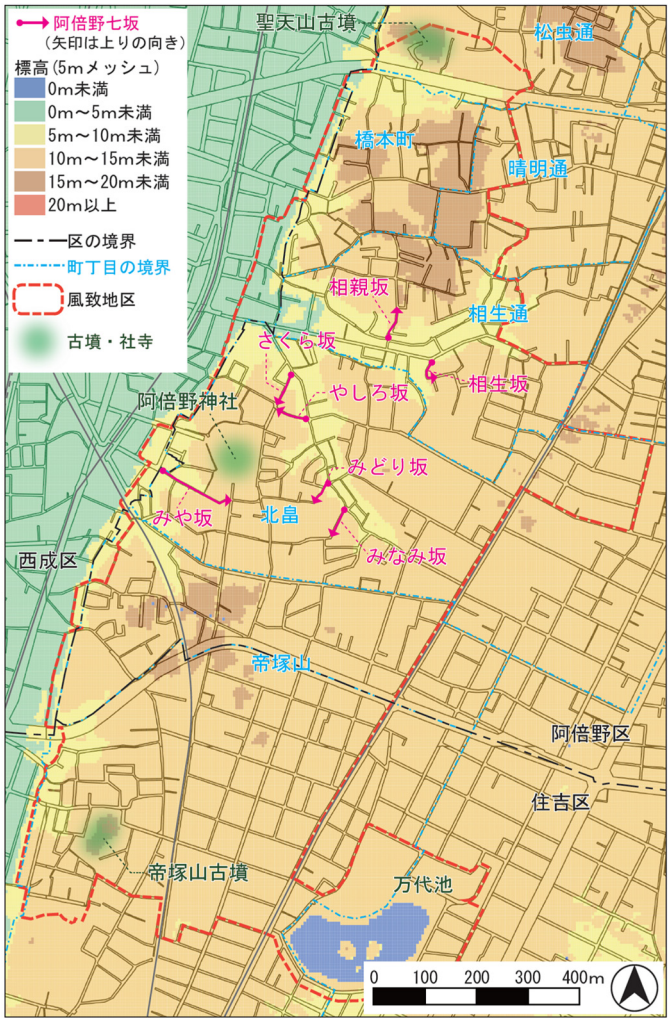
阿倍野七坂周辺一帯（以下，当地という）はかつて大阪市の南部郊外にあって一面畑地であったが，その後市街化が進み，現在は閑静な住宅街が広がっている。大阪市は全域が市街化区域であるが，当地は概ね住宅系用途地域が指定されている。また北側の聖天山古墳から南側の帝塚山古墳までの範囲に風致地区が指定され，阿倍野神社など，歴史的・自然的風致の保全が図られている。



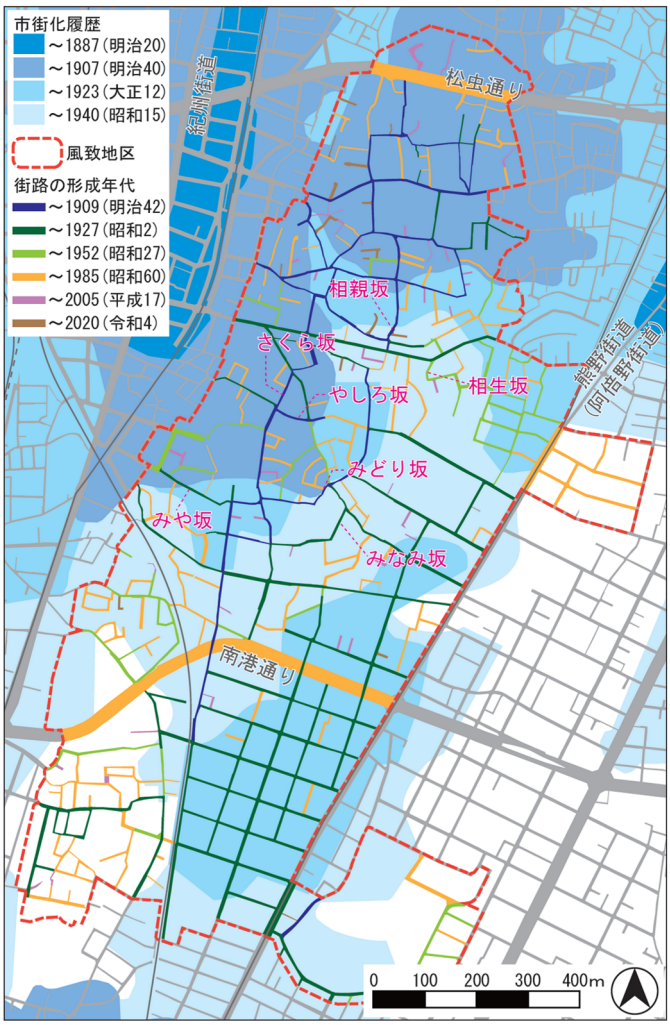
図－1　阿倍野七坂の様子

*大阪公立大学大学院工学研究科

*Graduate School of Engineering, Osaka Metropolitan University



図―2　阿倍野七坂の位置及び周辺の状況[4]



図―3　阿倍野七坂周辺の市街化履歴及び街路の形成年代

古代の頃，上町台地の周辺は海や湖，湿地，河川に囲まれていたとされる[5]が，当地はその名残が残る場所である。上町台地の西側斜面，標高10m付近で大きく地形が変化しているところは浸食により谷ができたところであり，ここに阿倍野七坂が位置する。

３．歴史に関する調査（図―3）

（１）市街化の履歴

当地が市街化した履歴を大阪市の市街地発展図[6]からみると，熊野街道（阿倍野街道）及び紀州街道沿いは1887（明治20）年までに市街化しているが，阿倍野七坂周辺，現在風致地区が指定されている範囲は，当時は未だ市街化していない。阿倍野区史によると，阿倍野区は明治の中頃まで殆ど全てが農村で米麦のほかに蕪，大根，菜種，胡瓜，茄子，綿などが栽培されていたという[7]。

阿倍野七坂周辺をみると，概ね，さくら坂・やしろ坂・みどり坂・みや坂（西側区間）の周辺は1907（明治40）年までに，相親坂・みや坂（東側）の周辺は1923（大正12）年までに，相生坂・みなみ坂の周辺は1940（昭和15）年までに市街化している。戦前までに，いずれの坂道も周辺が市街化していたことが分かる。

（２）街路の形成年代

次に，歴史的景観キャラクタライゼーションの手法を適用して街路の形成年代を特定し，阿倍野七坂の坂道そのものの歴史的価値を明らかにする。歴史的景観キャラクタライゼーションは英国文化庁が提唱する歴史的景観特性アセスメントの方法であり，一般に土地利用の年代特定により，エリア単位で年代特定を地図上で行い，景観の「時間的奥行き（Time-depth）」から歴史的価値を評価する方法である。詳細は既往研究に詳しい[8)9)]。本稿では，景観要素として坂道を含む街路（幅員 4m 未満の路地等を含む）を対象とする。以上より，阿倍野七坂の歴史的価値を明らかにするため，周辺の街路を含めて現在風致地区が指定されている範囲に現存する街路を対象に，歴史的キャラクタライゼーションを適用した。街路の形成年代を特定するにあたり，大阪市による2020年の2500分1地形図をベースマップとし，国土地理院による1885（明治18）年測量の陸測版仮製2万分1地形図，1909（明治42）年測量の正式2万分1地形図，1927（昭和2）年及び1952（昭和27）年測量の旧1万分1地形図，1985（昭和60）年及び2005（平成17）年測量の1万分1地形図を用いた。これらの地図を用いて，現在の街路と同等の位置・線形が確認できた時点で，当該の街路が形成されていたと判断した。

1885年時点では，風致地区の範囲に形成された街路は確認できなかった。なお熊野街道（阿倍野街道）及び紀州街道は確認された。当該の範囲では，1909（明治42）年時点でいくつかの街路の形成が確認できた。これらの多くは，当時は里道（達路・聯路・間路）又は小径として形成された。相親坂・さくら坂・やしろ坂・みどり坂はこの時点で形成されており（いずれも里道），当地で最も歴史ある坂道と言える。阿倍野区の市街化履歴を踏まえると，これらの坂道は阿倍野区全体の中でも最も古い坂道に分類されるだろう。なお，当地の地形は戦前から現在まで大きく変わっていないことが既往研究から明らかになっており[10]，これらの坂道も形成された当時から現在と変わらない勾配の坂であったと想定される。

1927（昭和 2）年には，当地の南側の街路も多くその存在が確

認された。みなみ坂・みや坂はこの時点で形成されたものであり，比較的歴史ある坂道である。1952（昭和27）年には，相生坂の存在が確認された。1985（昭和60）年には東西の幹線道路である松虫通り・南港通りが形成されており，この時点で当地の街路は概ね完成していたと言える。

なお，相生坂の上り口には「昭和十一年一月建立」とある大きな標石が現存している（「相生阪」と刻まれている）。このため，相生坂は1930年代には既に存在していたと考えられ，比較的歴史ある坂道と言える。また，阿倍野神社付近の5坂（さくら坂・やしろ坂・みどり坂・みなみ坂・みや坂）の周辺は，1923（大正12）年頃から土地区画整理が行われ，1935（昭和10）年頃にさくら坂・やしろ坂・みどり坂・みや坂の名称が生まれたとされる[11]（みなみ坂については確認できなかった）。これら5坂は1909（明治42）年又は1927（昭和2）年時点で坂道そのものは形成されていたことが確認されたが，その後，区画整理の中で整備され名称が付けられたのであろう。

4．地形に関する調査

（1）市街化当時の斜面住宅地に対する評価（表―1）

阿倍野区は明治後期から大正・昭和前期にかけて市街化が進んだ。阿倍野区史[12]では，区内の斜面地に形成された住宅地に対して，表―1のような記載がみられる。すなわち，当地を含めて上町台地の西側斜面に形成された住宅地は，低地を一望におさめ得る優れた眺望景観を有することが高く評価されていた。

表―1　斜面住宅地に対する評価（阿倍野区史より）

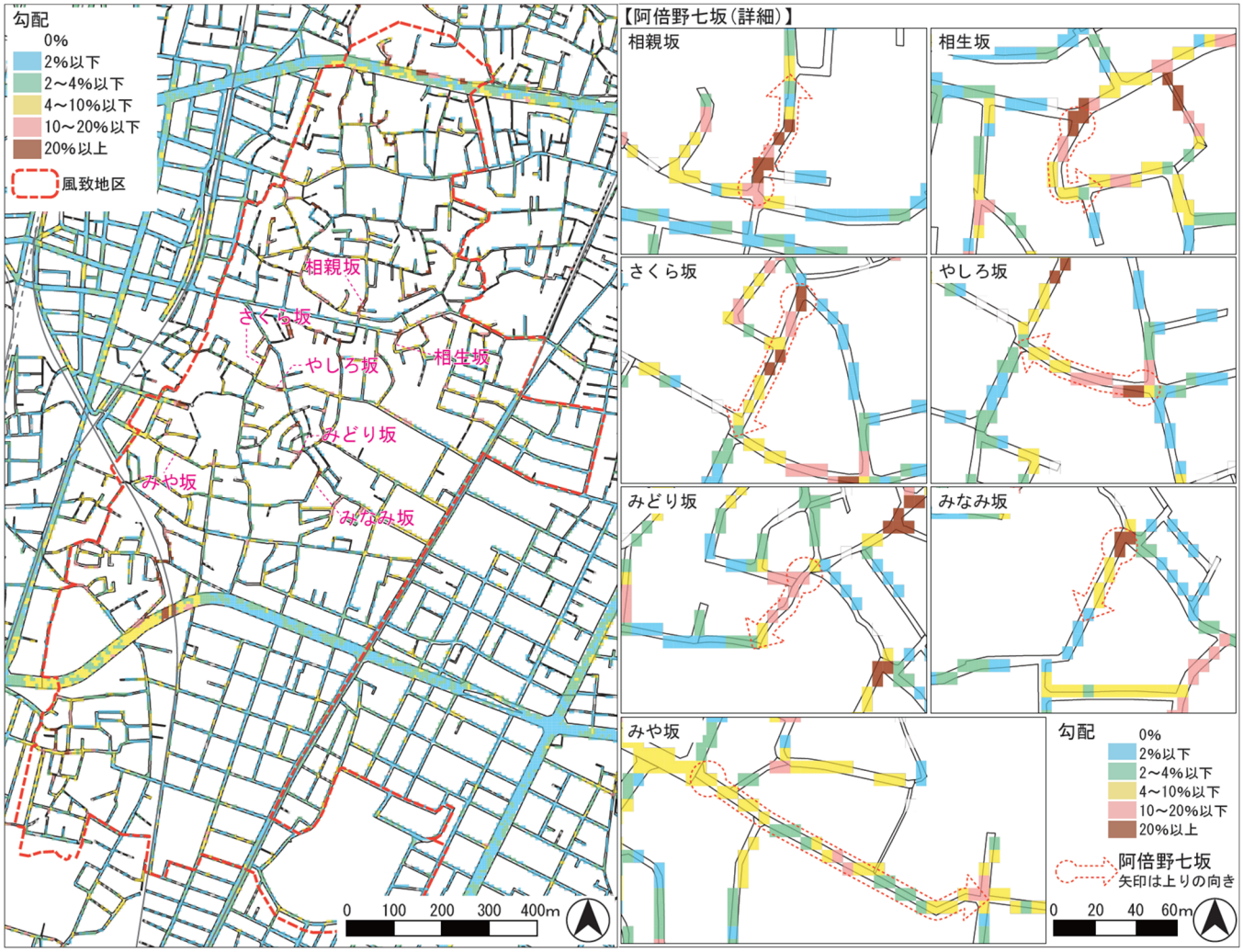
項目	記載内容（下線は著者）	箇所
断崖面と緩斜面	…上町丘陵は生駒山脈などと共に西側の傾斜が急で，東側は比較的緩斜面をなし，いわゆる傾動地塊と称される地形であるため，***（中 略）***当区の旭通・大正通・丸山通・松田通・晴明通・相生通などすべて急坂をなし，断崖面は10m以上の標高差を示している。従ってこのためにこそ**低地を一眸におさめ得る形勝の地として理想的住宅地として発展をみた**が，東側については極めて緩斜であるため歩いてみても到底坂という感じもない。	p21
画期的の発達	…明治の末年から急激に市街地の歩を進めてきた当区の地は大正期に至って**大阪市接続のもっとも理想的の住宅地として**文字通りすばらしい発展を示した。	p62

（2）勾配の特性（図―4）

当地における坂道を含む街路（幅員4m未満の路地等を含む）の勾配を計測した。はじめに，国土地理院の「基盤地図情報（数値地形モデル）5mメッシュ（2016）」を用いて，街路に該当するメッシュを抽出した。次に，各メッシュにおいて，東西南北8方向に隣接するメッシュの中から標高差が最大になるものを選択し，メッシュ間の標高差とメッシュ中心点の距離から，当該メッシュの最大勾配を求め，これを各街路における各地点の勾配とした。

風致地区の範囲の中には勾配20%以上となる坂道がいくつか存在するが，風致地区の範囲外では概ね4%以下程度の地点が多い。

また風致地区の範囲内であっても，南側はおよそ勾配10%以下



図―4　阿倍野七坂及び周辺の勾配

の地点が多い。概ね，北畠・相生通・橋本町の範囲で急勾配の坂道がみられる状況である。

阿倍野七坂の勾配を詳しくみると，相親坂・相生坂・さくら坂・やしろ坂・みなみ坂は上り口の勾配が20%以上と特に急になっており，これは阿倍野七坂周辺の他の坂道にはあまり見られない特徴であり，独特の景観を呈していると考えられる。坂の上り口から見上げる仰景観において，坂道が迫ってくるような力強い印象を抱くであろう（図－5，図－6）。みどり坂は勾配 10～20%が続く，比較的勾配が一定の坂道である。みや坂は勾配 2～4%又は 4～10%の地点も多く，比較的勾配が緩やかな坂道である。また相生坂・みや坂は下り口の付近で，みどり坂は全体において，折れ曲がりを有し，これが独特の景観を呈していると考えられる。

一方，かつては低地を一望におさめ得る優れた眺望景観を有する住宅地と評された当地であるが，このような景観を望むには坂の上から眺める下りの景観が低地に向けて開けている必要がある。当地には沿道に建築物が建ち並ぶ坂道が多く，開けた眺望を望む坂道は少ない。その中で，相親坂については下りの景観が僅かに低地の広がる西方向に開けている。このような地形の坂道は当地には殆ど見られず，相親坂は当地の中でも眺望が優れた坂道と言える（図－7）。みや坂は低地の西方向に下るが，緩勾配のため眺望を有するとは言えず，むしろ近年はカラー舗装が整備されており，阿倍野神社の参道としての位置づけが重視されていると考えられる。なお，当地において低地の広がる西方向に特に開けている地点は阿倍野神社である。阿倍野神社の西端から参道となっている階段を見下ろすと，優れた眺望景観を望むことができる（図－8）。

５．景観施策に関する調査

（１）景観計画での位置づけ

当地を含む上町台地の一帯は，大阪市景観計画では「上町台地景観配慮ゾーン」に位置付けられている。このゾーンでは，「坂や崖など地形の変化に富んだ景観特性」等を活かし，「坂の下からの見え方への配慮や緑，歴史景観資源との調和に配慮した景観形成を図る」こととされている[13]。「坂の下からの見え方」とあるように，眺望景観よりも坂の上り口から見上げる仰景観が重視されている。

（２）風致地区の指定・変更の経緯

当地に指定されている風致地区（聖天山地区）の指定・変更の経緯や規制内容等について，参考文献[14][15]より調査した（表－2）。

聖天山地区の風致地区は 1933（昭和 8）年に聖天山から北畠・帝塚山を超えて住吉大社に至る 177.8ha が指定されたが，1970（昭和 45）年の変更で縮小され，現在の 110.3ha の範囲となった。1933 年の指定当時は，社寺や公園，自然地に加え，台地・斜面上の住宅地も風致維持の対象として考えられていた。1970 年の変更当時は，自然地は減少していたものの，風格ある高級住宅街と称される北畠・帝塚山をはじめ地区内には大邸宅が建ち並び，樹木もよく手入れされており，「創り出された都市景観」としての意義があり，建築物および工作物の規制に重点をおくこと等の規制の方向性が示された。

表－2　風致地区（聖天山地区）の指定・変更の経緯等

年代・区分	指定・変更の経緯等（下線は著者）
1933 年 （昭和 8 年） 指定	**【指定理由】** 関西線以南天王寺高地ニ帯ヨリ住吉神社，住吉公園ヲ経テ住江公園ニ至ル地区ニシテ，此ノ内ニ聖天山，別格官幣社阿倍野神社，帝塚山，萬代池，大領池，官幣大社住吉神社，正印殿跡，生根神社，住吉公園，住江公園等ヲ，在リ，<u>南郊高燥住宅地帯ナリ</u>
1970 年 （昭和 45 年） 変更	**【変更理由（全市共通の参考理由書より）】※抜粋・概要** …指定地区の現状を検討すると，指定当時の風致を保全している地区は極めて少なく，<u>**風致の破壊がすすみ，地区の性格が著しく変容している**</u>のが殆どである。<u>***（中 略）***</u>今回の変更は…上町台地，大川，大和川周辺等の良好な自然景観を保っている地区については，大都市における「緑」の場として維持し，生活環境の向上を図ろうとするものである。
	【規制の大綱】 本地区の指定理由の主体は，帝塚山古墳を中心とする住宅地からなる，<u>**まとまりのある人文景観**</u>，住吉神社の社叢をとりまく，樹林の保全を期するものである。帝塚山古墳周辺には<u>**大邸宅が建ち並び樹木もよく手入れされ，「創り出された都市景観」として意義があり，建築物および工作物の規制に重点をおき，**</u>住吉神社付近においては樹木の伐採等に規制の重点をおくものとする。

実際，やしろ坂の沿道には昔からの大邸宅が残り，「風格がある」と評されている[11]（図－6）。一方，相生坂の沿道にはかつて大きな屋敷があり，屋敷に沿って「住宅街の中をカーブして上がっていく坂道は，独特の風格をもっている」と評されていたが[11]，2020 年までに当該の屋敷が取り壊されてしまった（図－9）。また，さくら坂の沿道はその昔，桜並木が美しかったとされるが，上り口左側の邸宅が取り壊されたことに伴い桜並木も消滅し[11]，著しく景観が変容した。しかしながら，現在は沿道に建つマンション敷地内にある樹木が仰景観におけるアイストップとなり，新たな景観が創り出されていると考えられる（図－10）。

（３）その他の取り組み

大阪市では，景観形成上の大切な資源について，その周知と地域の景観づくりの中で積極的に活用されることを目指し，大阪市都市景観条例に基づきこれらの資源を「都市景観資源（わがまちナイススポット）」として登録している。2023 年 2 月現在，阿倍野区では 34 件の資源が登録されているが，阿倍野七坂もその 1 つである。「大阪の歴史を地形でリアルに感じられ，歴史的・文化的価値を評価できる」と評されている[16]。

また，地域活動の中でも実際に阿倍野七坂を活用した取り組みがみられている。地元まちづくり団体である「オープン台地実行委員会」や「あべのって」（いずれも任意団体）では，阿倍野七坂を舞台にしたまち歩きイベントや勉強会等が行われている[17]。

図－5　相親坂の仰景観

図-6　やしろ坂の仰景観

図－7　相親坂からの眺望

図－8　阿倍野神社からの眺望

図－9　相生坂の仰景観
（左にあった屋敷が更新された）

図－10　さくら坂の仰景観
（左の樹木がアイストップになる）

表－3　阿倍野七坂の景観的価値（歴史・地形・景観施策の観点から）

<table>
<tr><th></th><th>歴史</th><th>地形</th><th>景観施策</th><th>その他・備考</th></tr>
<tr><td>相親坂</td><td>・阿倍野七坂周辺一帯で最も古くから形成された坂道（～1909）で，阿倍野区内でも最も歴史ある坂道
・1923 年までに周辺が市街化</td><td>・坂の上り口が急勾配で，上り口からの仰景観が特徴
・坂の上から眺める眺望景観が優れている（当地では珍しい）</td><td rowspan="7">・大阪市景観計画の「上町台地景観配慮ゾーン」にあり，坂の上り口からの仰景観への配慮，緑との調和等が重視されている
・風致地区の指定当初（1933 年）から自然地に加え，台地・斜面上の住宅地も風致維持の対象であった
・風致地区の変更（1970 年）では，風格ある高級住宅街として「創り出された都市景観」の意義が示され，建築物等の規制の方向性が示された
・阿倍野七坂の「都市景観資源」としての登録や，地元まちづくり団体のまち歩き等が行われている</td><td>－</td></tr>
<tr><td>相生坂</td><td>・阿倍野七坂周辺一帯で比較的古くに形成された坂道（～1930s）
・1940 年までに周辺が市街化</td><td>・坂の上り口が急勾配で，上り口からの仰景観が特徴
・折れ曲がりが特徴</td><td>・かつて沿道に大きな屋敷があり，独特の風格を有した坂道であるが，屋敷が取り壊され景観が変容した</td></tr>
<tr><td>さくら坂</td><td rowspan="3">・阿倍野七坂周辺一帯で最も古くから形成された坂道（～1909）で，阿倍野区内でも最も歴史ある坂道
・1907 年までに周辺が市街化</td><td rowspan="2">・坂の上り口が急勾配で，上り口からの仰景観が特徴</td><td>・かつて桜並木が美しかった
・現在は沿道マンションの樹木を眺める新たな景観が創り出されている</td></tr>
<tr><td>やしろ坂</td><td>・沿道には昔からの大邸宅が残り風格がある坂道である</td></tr>
<tr><td>みどり坂</td><td>・勾配は一定
・折れ曲がりが特徴</td><td>－</td></tr>
<tr><td>みなみ坂</td><td>・阿倍野七坂周辺一帯で比較的古くに形成された坂道（～1927）
・1940 年までに周辺が市街化</td><td>・坂の上り口が急勾配で，上り口からの仰景観が特徴</td><td>－</td></tr>
<tr><td>みや坂</td><td>・阿倍野七坂周辺一帯で比較的古くに形成された坂道（～1927）
・1923 年までに周辺が市街化</td><td>・勾配は一定で，緩やかな坂道
・折れ曲がりが特徴</td><td>・阿倍野神社の参道
・近年，カラー舗装により整備された</td></tr>
</table>

６．まとめ

本稿では，阿倍野七坂の坂道景観について，歴史，地形，景観施策の観点から調査・分析した。結果を表－3 に示す。阿倍野七坂はいずれも歴史ある坂道であり，古くから地域に親しまれてきた。また，それぞれに特徴的な地形を有し，独特の景観を呈している。

さくら坂・やしろ坂・みどり坂は，阿倍野七坂周辺一帯で最も古くから形成された坂道であり，いち早く周辺が市街化しており，住宅地内の坂道として特に歴史的価値のある坂道景観を有する。さくら坂・やしろ坂は上り口からの仰景観が特徴的で，みどり坂は勾配一定で折れ曲がりが特徴である。

相親坂も最も古くから形成された坂道であるが，先に挙げた 3 坂と比べると周辺が市街化した時期が少し遅い。また，上り口からの仰景観と坂の上から眺める眺望景観が特徴であり，地形的観点からみて，特に価値ある坂道景観を有していると言える。

相生坂・みなみ坂・みや坂は，阿倍野七坂の中では形成された時期は少し遅いが，歴史的価値は十分高い。相生坂・みなみ坂は上り口からの仰景観が特徴である。みや坂は勾配一定で緩やかな坂道景観を有し，地形的特性よりもむしろ，阿倍野神社への参道としての位置づけから，貴重な人文景観を有していると言えるだろう。

これらの坂道に対し，大阪市景観計画では坂の上り口からの仰景観への配慮，緑との調和等が重視されており，これは仰景観が特徴的な坂道が多いという阿倍野七坂の特性と整合している。また，阿倍野七坂周辺一帯は風致地区が指定されている。指定当時に当地が有していた風致は破壊されてしまったが，一方，現在は「創り出された都市景観」の意義が重視されている。例として，さくら坂はかつて桜並木が美しかったが，現在は沿道マンション敷地内の樹木がアイストップとなり，新たな景観が創り出されていると言えるだろう。

以上，阿倍野七坂の坂道景観について，歴史，地形，景観施策の観点から調査・分析し，その景観的価値について考察した。今後は，阿倍野七坂の坂道景観に関する景観印象評価等に取り組みたいと考えている。このような取り組みを通じ，阿倍野七坂が市民に身近で重要な景観資源としてさらに親しまれる場所になることを目指したい。また，「都市景観資源」の位置づけの周知など，阿倍野七坂を活かしたまちづくりの展開を期待するところである。

補注及び引用文献

1）天王寺区夕陽丘（上町台地）に位置し，北から真言坂，源聖寺坂，口縄坂，愛染坂，清水坂，天神坂，逢坂の七坂のことである。

2）上村麻梨子・吉川徹（2006）：魅力的な坂道の空間構成の定量的分析－東京都心部周辺の有名な坂を題材として，日本建築学会大会学術梗概集（関東），165-166

3）赤塚寛樹・嘉名光市（2010）：上町台地における坂道景観に関する研究，景観・デザイン研究論文集，No.9，37-48

4）標高データは国土地理院「基盤地図情報（数値地形モデル）5m メッシュ（2016）」を用いた。町丁目は 2020 年国勢調査小地域を基本とした。風致地区は南側に飛び地として住吉大社周辺が指定されているが，阿倍野七坂とは遠く離れ関りも弱いため，図の対象外とした。

5）岡本哲志（2019）：地形で読みとく都市デザイン，学芸出版社，8-9

6）大阪市（1974）：市街地発展図

7）川端直正 編（1956）：阿倍野区史，阿倍野区市域編入三十周年記念事業委員会，43pp

8）J. Clark, J. Darlington, G. Fairclough（2004）：Using historic landscape characterization, English Heritage

9）宮脇勝（2012）：歴史的景観キャラクタライゼーションに関する研究－鎌倉市中心部の寺社・道路・街区・水路・土地利用の歴史的景観特性アセスメント，都市計画論文集，Vol.47，No.3，607-612

10）下村泰彦・河野礼・加我宏之・増田昇（2008）：大阪市聖天山地区を事例とした風致地区制度と緑地景観の保全に関する研究，都市計画論文集，Vol.43，No.3，661-666

11）旧街道等調査委員会 編（1985）：大阪市の旧街道と坂道，大阪市土木技術協会，195-196

12）川端直正 編（1956）：阿倍野区史，阿倍野区市域編入三十周年記念事業委員会，21-62

13）大阪市（2006 策定・2020 改定）：大阪市景観計画

14）大阪市（1968）：大阪市の風致地区の計画策定に関する研究

15）大阪市（1971）：大阪の地域制，95-103

16）大阪市：都市景観資源（わがまちナイススポット）：大阪市ホームページ，2021 年 11 月 1 日更新，2023 年 2 月 27 日参照
＜https://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/0000017850.html＞

17）いずれも著者が関係者として活動に携わった。